

第50回 内田地区大運動会

無事開催!

九月十一日に、第五十回内田地区大運動会が開催されました。各町会とも団結力を発揮し、みんなで楽しむことができました。伝統ある運動会が、世代間交流やコミュニケーションの場として、今後も長く続いていくことを願います。



平成 28 年 11 月 1 日現在

世帯数	967 戸
人口	2,425 人
男	1,214 人
女	1,211 人



私が一番



開会式



中学生ボランティアも活躍



大玉おくり



早くつぎだめ



ボールひろい



男子リレー



ササラ踊り



表彰

競技結果	
優勝	… 6 町会
準優勝	… 1 町会
第三位	… 3 町会



スプーンレース



ゲートを通せ

市民体育大会

十月九日に、松本市民体育大会が開催されました。

内田地区からは五種目六チームが出場しました。しかし、今年も昨年同様の強い雨に見舞われ、屋外競技が一部中止となったため、総合順位はつきませんでした。

実施された
実技はいずれも熱戦で、手に汗握る戦いぶりを見せて下さいまし



試合結果

卓球 敗者復活戦敗退

ソフトバレーボール

39歳以下の部 ベスト16

40歳以上の部 予選敗退

マレットゴルフ

男子の部 8位

内田公民館バス視察研修

中山晋平記念館

一茶ゆかりの里・二茶館

十月三十日(日)、秋晴れのもと内田公民館の視察研修が開催され、私も図書視聴覚委員長として参加しました。

バスで長距離を移動し、最初に中野市の中山晋平記念館を訪れました。作曲家として有名な中山晋平は、東洋のフォスターとも呼ばれ、現代歌謡の礎を築いた偉人です。名前だけは知っていましたが、こういった活動をしてきた人物なのかは、詳しく知りませんでした。

記念館では、「シャボン玉」と「ふるさと」を参加者みんなで唄い、その後中山氏のあゆみを映像で説明していただきました。若干十六歳で小学校の教員として勤められた中山氏は後に音楽学校へ入学。苦学のなかから作曲家としての才能を芽生えさせたことを知りました。

その後のめざましい活動において、常に中山晋平は誰かと関わっていました。彼にはゆかりの詩人・歌人が多く、館内展示物からも仲の良さがうかがえます。彼らが共に活動し、音楽という共通の文化でつながって行く中で、互いをリス



ペクトした結果が数々の楽曲にあらわれているのだと感じました。また、館外には石碑などがあり、見どころが多く、童謡にちなんだシャボン玉をはき出すオブジェが何とも可愛らしかったです。ちなみにこの記念館で、娘にお土産のしおりを購入しました。

見学後、高山村まで移動し、昼食をいただきました。季節の新そばを中心とした定食で、打ちたてのおそばを提供してくださいました。とても風味があって美味しく、ボリューム満点！

やや満腹になりながら、次は一茶ゆかりの里「二茶館」へ向かいました。有名な俳人、小林一茶にまつわる関連資料や、一茶の遺墨が数多く展示されています。こちらでも、まずは一茶の生涯についてビデオで解説を受けました。継母と馴染めずに切なく過ごし

た幼少期の思いが、後の句風にも影響を与えているということが印象的でした。このことは、親のいない雀を詠んだ直筆の句が、展示にあったことからも分かります。また、達筆であると同時に、意外と絵も上手で、俳句と一緒に山や他の俳人が描かれていたものが数点展示されていました。素朴で味わい深く、どこか懐かしい気持ちになりました。

一茶館を後にし、最後は小布施へ移動。前日はおぶせ栗祭りが開催されていたそうで、とても混雑していたらしいのですが、日がずれていたのです。丁度よかったです。こちらでお菓子のお土産を買って、小布施の名物である栗を使ったスイーツを楽しみました。

今回の視察研修は、自分にとって良い気分転換になりました。また、行き先がいずれも学術的でとても勉強になり、日本の優れた文芸に触れる素敵な機会でした。折しも芸術の秋でしたので、少しだけアカデミックな空気に感化されながら帰路につききました。

ご一緒に参加された皆さま、どうもありがとうございました。楽しく過ごさせてくださいました。

二町会 北原 美恵

つれづれ編集記

毎日の日課に犬の散歩がある。子どもがほしがって飼いはじめた犬ではあるが、本人たちは帰宅が遅いため私が散歩係となっている。

散歩中、よその犬の跡が気になる我が家の犬は、下ばかり歩いて歩いているが、リード(引き綱)を持つ私は周りを見渡す。やまびこドームの屋根より高いところを歩いているなあ。塩尻方面は雨がふっているな。山の稜線が今日はキレイに見えるな。「あっ、虹が出てる！」と言つても犬は無反応。

今年初めて見た花や野鳥にワクワクしたり、桜並木のピンク色の集まりや、たき火の煙の本数を数えたり、時には気の重い散歩も帰るころには足取りも軽やかになっていく。犬のための散歩なのか、私の運動不足解消に犬が付きあってくれるのか時々わからなくなるが、お互いにメリツトがあることは確かだ。

散歩と食事以外は寝てばかりの犬を見て、子どもたちはよく「犬になりたいなあ」と言うが、私は生まれかわっても、季節の草花や美しい景色を楽しめる人間がよいと思つている。

二町会 中島 佳代子